

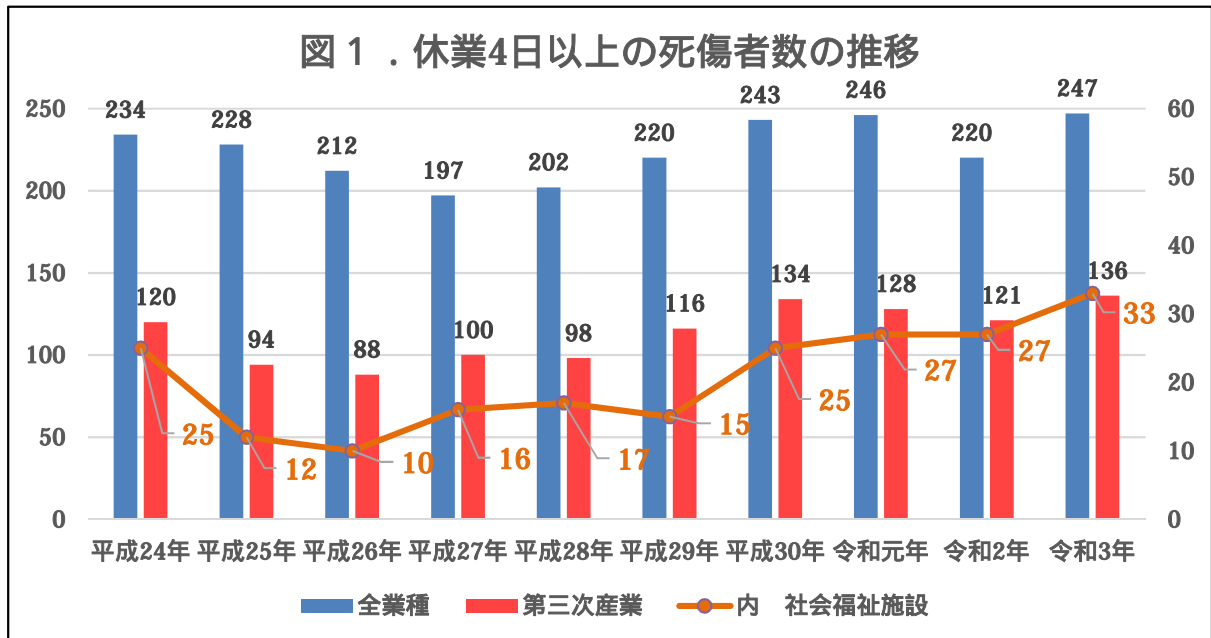
社会福祉施設における労働災害発生状況

1. 労働災害発生状況の推移

表1. 伊勢労働基準監督署管内における休業4日以上之死傷者数の推移

	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年
全業種	234	228	212	197	202	220	243	246	220	247
製造業	49	46	60	53	36	47	42	59	33	51
建設業	30	51	41	25	37	30	38	27	33	33
第三次産業	120	94	88	100	98	116	134	128	121	136
内 小売業	27	21	25	25	22	33	36	21	27	32
内 社会福 祉施設	25	12	10	16	17	15	25	27	27	33

単位:人(以下、同じ。)



2. 事故の型別災害発生状況(過去5年間)

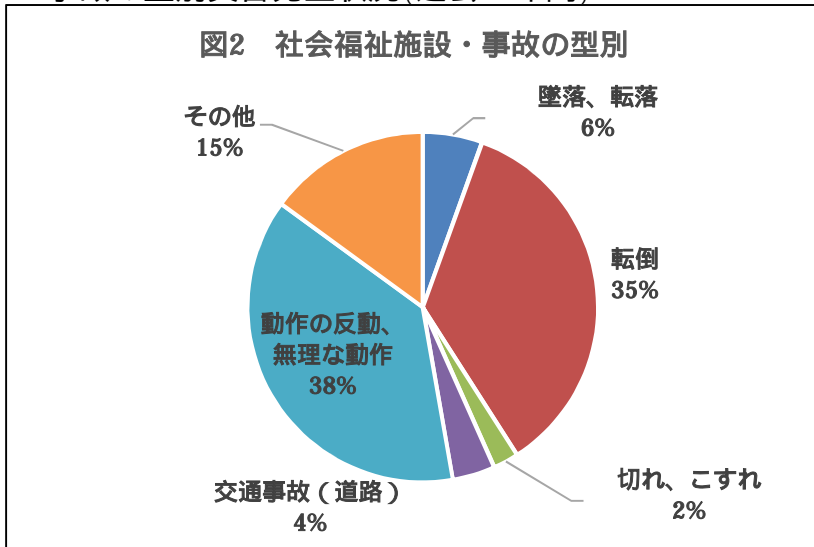


図2は事故の型を円グラフで示したものです。

事故の型別では、転倒災害と腰痛を含む「動作の反動、無理な動作」による災害が最も多く発生し、この2つで7割以上を占めています。

3. 被災者の年齢別災害発生状況(過去5年間)

図3-1 全産業・社会福祉施設 年齢別

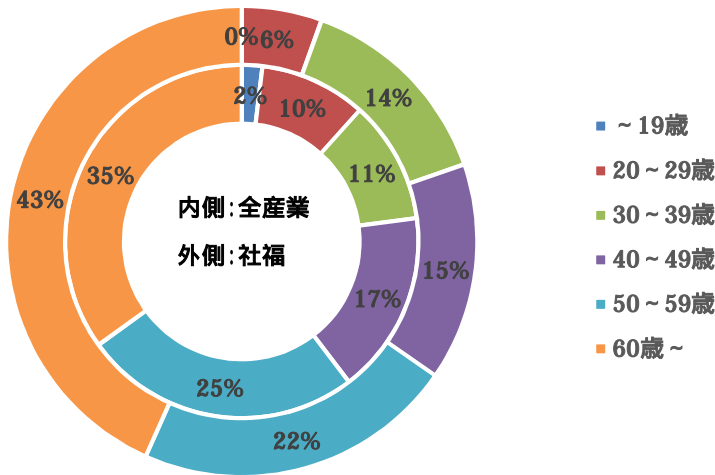


図3-1は被災者の年齢を年代別に円グラフで示したものです。社会福祉施設(外側)では、全産業(内側)に比べ、60歳以上の被災者の割合が高くなっています。

図3-2 社会福祉施設 年齢別(転倒)

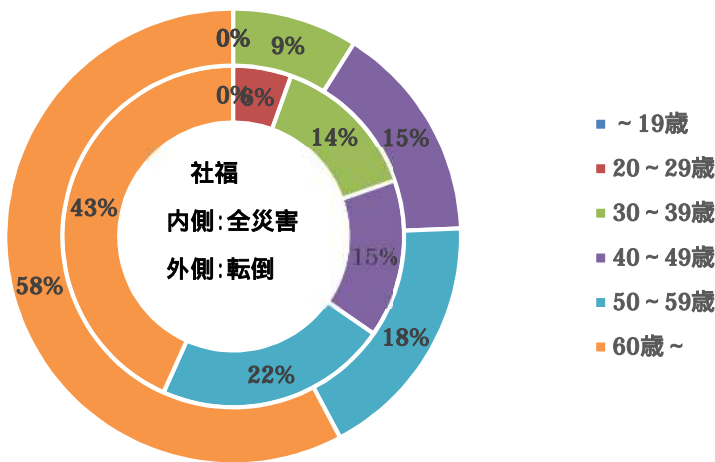


図3-2は社会福祉施設のみでの年代別円グラフで、事故の型別に全災害(内側)と転倒災害(外側)とを比較したものです。転倒災害では60歳以上の割合が非常に高くなっています。

図3-3 社会福祉施設 年齢別(動作の反動等)

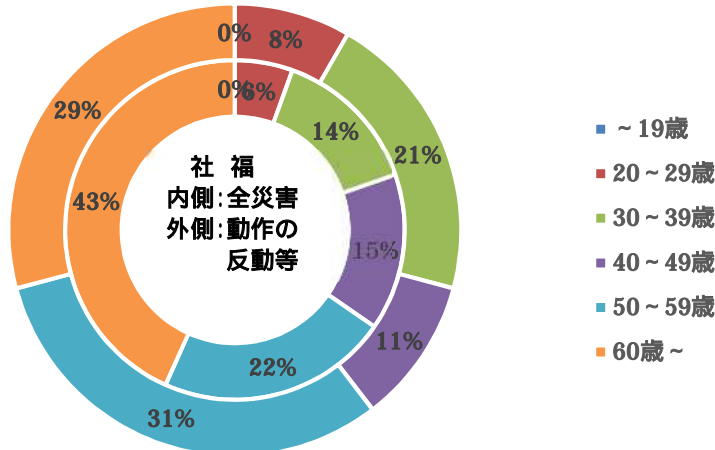


図3-3は社会福祉施設のみでの年代別円グラフで、事故の型別に全災害(内側)と腰痛など動作の反動等(外側)とを比較したものです。50歳代の方の割合が高くなっていますが、30歳代でも高くなっています。

4. 転倒災害防止対策

転倒災害の事例をみると、通路や作業スペースに置かれた物に「つまづく」、通路等が水や油でぬれていて「すべる」、階段等を降りている時に「踏み外す」という転倒災害が多く発生しています。4S(整理、整頓、清掃、清潔)の徹底を中心に、職場での転倒災害防止対策に努めましょう。

転倒災害防止チェックリスト	
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか
3	通路や階段を安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていますか
4	靴は、すべりにくくちょうど良いサイズのものをえらんでいますか
5	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか
6	段差のある場所や滑りやすい場所などに、注意をうながす標識などを付けていますか
7	ストレッチや転倒予防のための運動を取り入れていますか

5. 腰痛防止対策

腰痛の発生要因は、腰部に過度の負担を加える動作要因、腰部への振動や温度、明るさなど転倒の原因となる環境要因、年齢や既往症又は基礎疾患などの個人的な要因など種々の要因があります。作業管理、作業環境管理、健康管理及び労働衛生教育など総合的・継続的に腰痛防止対策に努めましょう。

腰痛防止チェックリスト	
1	できるだけ重量物に身体を近づけ、重心を低くするような姿勢をとるようにしていますか
2	床面から重量物を持ち上げる場合、片足を少し前に出し膝を曲げ、腰を十分に下ろして重量物を抱え、膝を伸ばすことにより立ち上がっていますか
3	重量物を持ち上げる時は、呼吸を整え、腹圧を加えて行っていますか
4	重量物を持った場合は、背を伸ばした状態での腰部のひねりを少なくするようにしていますか
5	靴はすべりにくく、クッション性があるものをえらんでいますか
6	作業場所などで、足もとや周囲の安全が確認できるように適切な明るさを保っていますか
7	ストレッチを中心とした腰痛予防体操を取り入れていますか

その他の転倒・腰痛防止対策及び高年齢労働者については、右の厚生労働省HPをご覧ください。



転倒・腰痛予防



高年齢者対策